

ア・レ・からというもの
申鶴さんに求められる
日々は続いたが

そのだな…

今日もですか!?

大丈夫だ…

今日は主を
気持ちよくするだけだ

なにが大丈夫なんだ…

それ…留雲借風真君特製の
精力剤だよね…

ダメか…

主よ…?!

断れるわけなかった

師匠が
新しいものを
作ってくれたのだ



ムフム

ムフム

ムフム

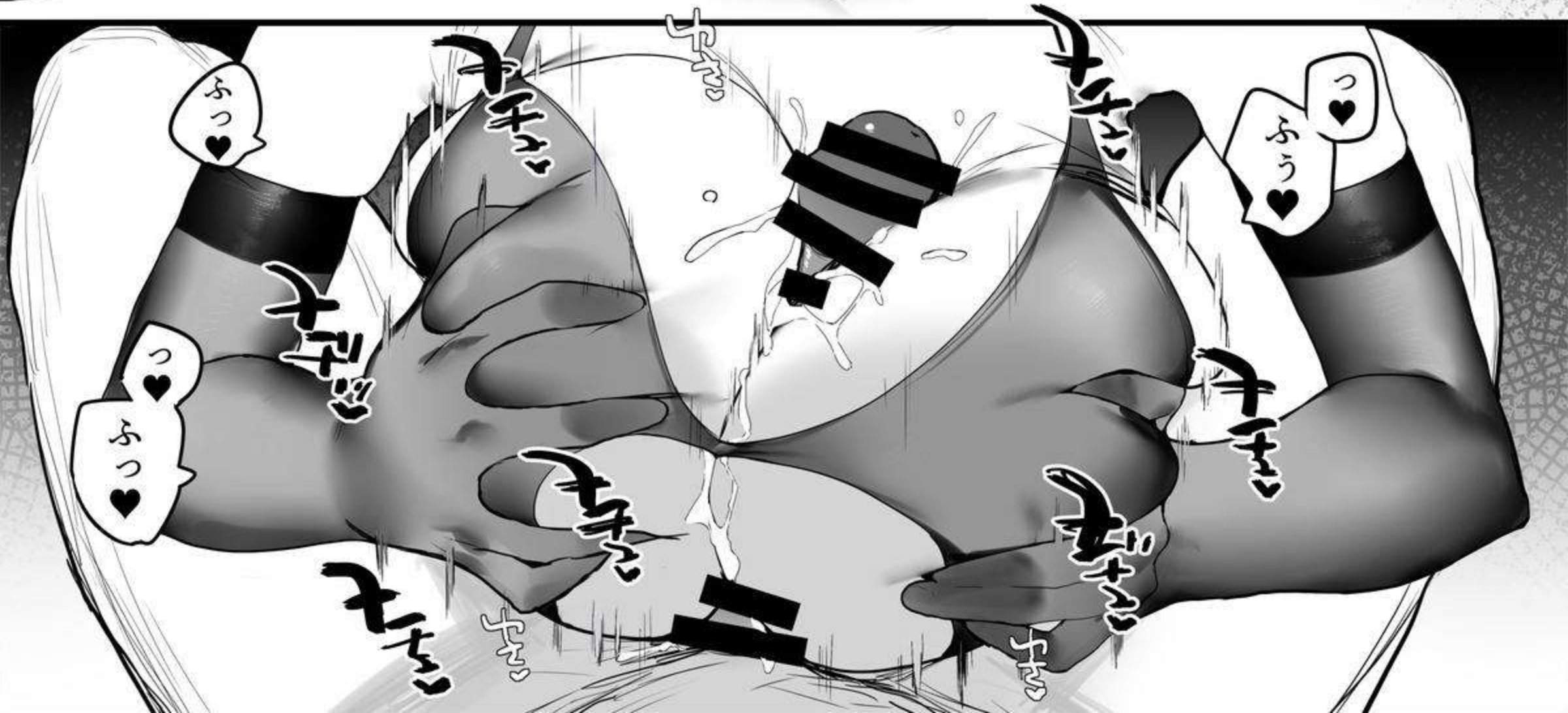
主よ…どうだ…？
興奮…するか…？

ムフム



今日は我が主を
気持ちよくする...♡

だから
じっとしていてくれ♡





っ♡んっ♡

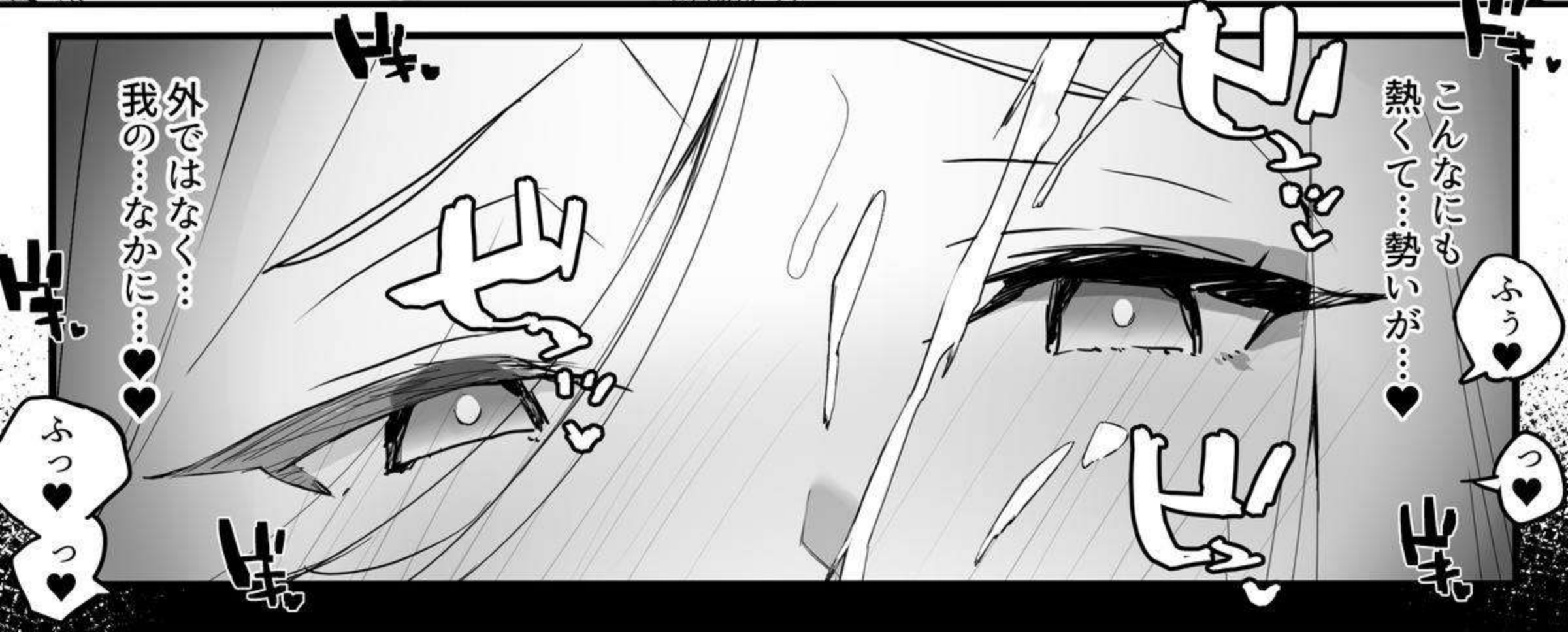
んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



こんなにも熱くて…勢いが…♡

ふう♡

っ♡

外ではなく…
私の…なかに…♡

っ♡

んっ♡

んっ♡

その…先程はああ言ったが…
今度は私のなかに…♡

んっ♡

やっぱり
こうなった…

主の子種を
放ってはいけないか…♡♡

糸引いてるね…

ほんとに中出しして
ほしくて堪らないんだね

そうだ…頼む…
主の子種を…♡

スト♡♡♡







フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ

フワッ



カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ

カサカサ



この後も申鶴さんが
満足するまで
イチャイチャした